



海外含め4万人が受検、20～30代が増加

= 平成27年度第1回日本語検定 =



日本語の総合的な能力を測る「日本語検定」（略称・語検）の平成27年度第1回（通算第17回）検定が、6月12（金）と13日（土）に行われました。国内は47都道府県91カ所の一般会場と630カ所の準会場、海外は韓国（ソウルなど3カ所）、アメリカ（ニューヨーク）、フランス（パリ）、台湾（台北）の4カ国（準会場も合わせ）で実施され、前回並みの4万401人が受検しました。

「語検」は、敬語や文法、語彙（ごい）、表記など6つの領域にわたり、日本語を正しく使うことができるか、一人ひとりの能力を測るものです。1級から7級まで、小学生から社会人まで幅広い年齢層を対象としています。検定結果は、7月7日午後に語検ホームページで合否速報が発表され、同月中旬には個人カルテと認定証が発送されます。

今回の受検者数は、1級（社会人程度）1002人、2級（大学卒業程度）5860人、3級（高校卒業程度）1万5433人、4級（中学校卒業程度）9681人、5級（小学校卒業程度）4171人、6級（小学校4年修了程度）3475人、7級（小学校2年修了程度）779人で、前回に比べ2級と3級が1割ほど増えた半面、5級が4割、7級が5割いずれも減ったのが特徴です。

日本語検定委員会事務局によると、20歳から30歳ぐらいの受検者が3級や2級の認定取得を目指すケースが増えており、就職活動を見据えた大学生や社会人の若手を中心に、正しい日本語を身に付けたいという意欲が高まっているものと見ています。最年長者は1級を受検した群馬県の94歳の男性、最年少者は7級を受検した山形県の6歳の男の子でした。

◆ 1150人が挑戦 = 東京23区会場

東京23区の一般会場となった渋谷区代々木の山野美容専門学校では、社会人を中心に1150人が1級から7級に挑戦しました。

梅雨の晴れ間が広がったこの日は、最高気温29度、湿度60パーセントの蒸し暑い中、半そで姿の受検生が目立ちました。検定開始30分前ごろには、真剣な眼差しで問題集に目を通す姿があちこちで見られ、15分前には監督者の注意事項の説明に耳を傾けていました。級ごとに分けられた教室に20～30人ずつ入り、午前と午後の2回に分かれて受検しました。



次ページへ続く >>>

◆ きれいな日本語を使えるように

教師をリタイアして間もないという渋谷区在住の60歳代の女性は、「ようやく余裕ができたので、今度は自分のレベルアップのために」と受検の動機を話すとともに、「初めてなので4級からにしました」とやや緊張した表情を浮かべていました。

母親の勧めもあって6級にチャレンジするという神奈川県川崎市の小学5年の女の子（10歳）は、はきはきした言葉づかいで「大きくなってから、きれいな日本語を使うようになりたい」と初めての語検に目を輝かせていました。

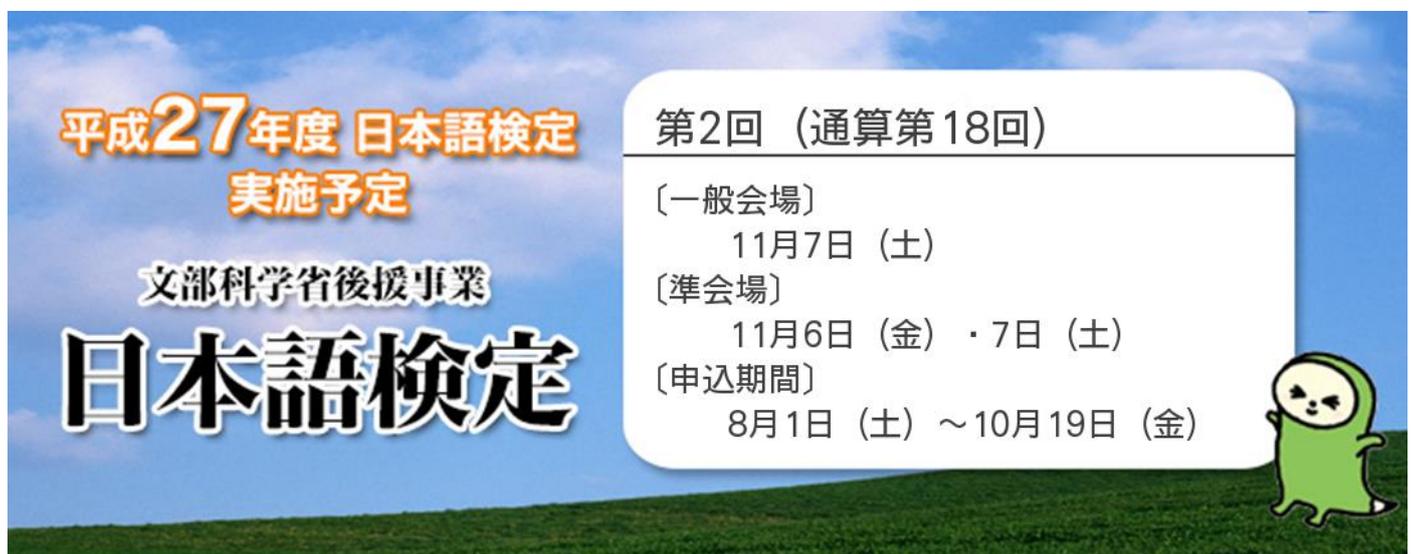
◆ 就職や仕事に生かしたい

大学で新聞学科に在籍しているという千葉市在住の大学1年の男性（18歳）は、教授が紹介していた幾つかの検定の一つとして語検に初挑戦。「メディアや報道の分野に興味があるので」と話し、入学したばかりにもかかわらず就職活動を見据え、認定取得に意欲を燃やしていました。

少数ながら会場には外国人の姿もありました。笑顔でインタビューに応じてくれたのは2年前に銀行員として来日したという文京区在住の20歳代のフランス人男性。「コミュニケーションをとるだけでなく、丁寧な日本語を話せるようになりたい」と、言葉を選びながら、しっかりした口調で日本語習得への決意を語ってくれました。

(時事通信社編集委員 升谷 昇)

平成 27 年度 検定 の ご 案 内



**平成27年度 日本語検定
実施予定**

文部科学省後援事業

日本語検定

第2回 (通算第18回)

[一般会場]
11月7日 (土)

[準会場]
11月6日 (金) ・ 7日 (土)

[申込期間]
8月1日 (土) ~ 10月19日 (金)

